

関山嶺

発行：正眼短期大学 校友会

〒505-0008 美濃加茂市伊深町 876-10
(正眼短期大学内)

TEL.0574-29-1372/FAX.0574-29-1320

E-mail: jimkyoku@shogen.ac.jp

http://www.shogen.ac.jp

* 題字：初代会長 清田保南老師



ご挨拶

正眼短期大学 校友会会長

高林 康秀 (三十五期生)

正眼短期大学校友会員諸氏におかれましては、益々ご清祥の事と拝察申し上げます。

すでにご承知の方もお見えと思いますが、現学長山川宗玄老大師が、令和六年四月一日より妙心寺派管長に就任される事となりました。正眼寺から管長に就任されますのは初代学長梶浦逸外老大師が昭和四十四年一月に就任されて以来五十四年ぶりの事です。

管長職は大変多忙な職務とお聞きしておりますので、老大師におかれましては何卒お体にお気をつけ頂き、益々のご健康とご活躍を心より祈念申し上げます。

さて、少し前の事になりますが、他の僧堂のご縁ある老師とお話をさせて頂く機会があり、その中で正眼短大の話題になりました。その僧堂へは短大卒業生が昭和の後半頃より現在までに、七十名掛搭しているそうです。そして、老師曰く『短大からの掛搭者は一人も逃げ出した者がいない』そうです。老師は何故かなと考えられ、正眼短大生は寮

生活で団体生活の基礎が身につけているからではないか、と思われたそうです。

さらに老師は『僧堂へ掛搭して来る者は、ある程度修行の厳しさには覚悟を持って入門してくるが、団体生活はやってみないと分からないから、それに耐えられない者は逃げてしまう。その点短大卒業生はしっかりと団体生活の基礎が出来ているから素晴らしい』とお褒めの言葉を頂きました。

確かに他の大学へ通い、アパートで一人暮らしをされた入門者と、二年間寮生活をした入門者とは明らかにスターラインと経験が違ってしまう。

老師のお話をお聞きして、短大生活がその後の人生の大きな糧になっているのだと改めて実感を致しました。

最後になりますが、コロナ感染症も第V類に下げられ、コロナ禍が終わったような世の中になりつつありますが、現在もコロナ感染症で苦しんでおられる方々が大勢おられます。

皆様方もくれぐれも御油断なきようお願い申し上げます。



ご挨拶

正眼短期大学 理事長・学長

山川 宗玄 老師

早いもので今年も霜月となりました。

これは誰しもの感覚でしょうが、正に今日われわれは、種々の行事も含め諸事多端の毎日です。

とは申せ、校友会の皆さまには愈々ご清福のことと拝察、お慶び申し上げます。

さて、本学は「行学一体」の理念のもと、学生教職員一丸となって日常のこと、教育と修養に努めて居りますが、先の忙しさに流されないようにしたいものです。

ところで此度小柄、妙心寺派管長に推戴され、万般熟考の上決断、明年四月一日、妙心寺入寺就任の運びとなりました。しかし、正眼僧堂、正眼短大等の役目役割についての事情を勘案すれば、相当の頻度で京都と岐阜との往復をしなければなりません。

やり抜く覚悟で参りたいと存じますが、本学の存続と一層の発展を願えば願うほど、校友会の皆さまには、改めてご賛援ご協力の程、お願い申し上げる次第です。

また、昨年同様コロナウイルス禍の日本と、ロシアのウクライナ進攻の激化、更にパレスチナ自治区ガザへのイスラエル軍の進軍等、世界中の悲劇、苦悩が拡大しています。

その影に、弱き子供や女性、老人への人道危機が深刻化していて、危機的状況の世の中と表現することが、大袈裟ではなくなっています。

この様な時代をどう生きるか、本当にこう問われる如今と言えます。

そして仏教が、禅が真に希求されている如今と言っても過言ではないと思えます。それ故に、本学の存在意義を断固主張して、ご挨拶いたします。

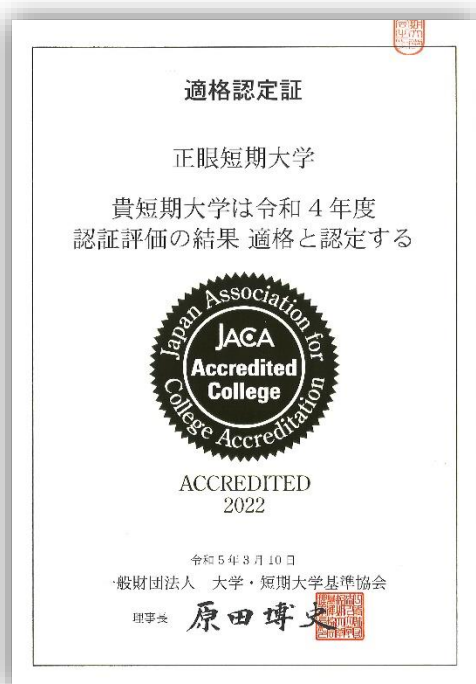
宗玄 合掌

(令和五年十一月記す)

認証評価結果報告

大学・短期大学基準協会による認証評価の結果、令和5年3月10日付で適格の認定をいただきました。

認証評価とは、文部科学大臣の認証を受けた評価機関が、大学等の教育研究活動状況について、定められた評価基準に基づき行う評価制度のことです。7年毎に評価を受け、今回が3クール目でした。今後も意義のある教育を続けていけるよう、教職員一丸となって努力して参ります。皆様ご指導、ご協力のほど、何卒よろしくお願ひ申し上げます。



- 「和の養生学」の授業では今年度も、薬草や食材に触れ、健康について学びました。
美濃加茂市の主催で行われる「健康フェア」に出展し、授業で学んだことを紹介しました。



R4.11.1 お粥3種類の調理実習



R4.11.2 味噌作り



R4.6.28 甘茶摘み(先生の薬草苑にて)



R5.4.4 蓮の植え替え(正眼寺にて)

環境フェア▶

R4.10.15 (ぎふ清流里山公園/
美濃加茂市山之上町)

薬草についてのパネル展示、
皿灸体験、甘茶の試飲を提供し
ました。たくさんの方に楽しんで
いただきました。



● 「仏教学」 校外授業 R4.11.11

虎溪山永保寺(治見市虎溪山町)へ行き、
国宝の建物やお庭などを見学しました。
天気も良く、気分転換にもなりました。



- **三仏忌** 例年どおり、講堂に集まって学長から仏忌についてお話をしていただき、お参りをしました。



R5.5.10 降誕会



R5.1.17 涅槃会

- **撰心** 年間6回の撰心を行います。正眼寺の夏期講座と開山忌の前には作務撰心となります。年1回の短大大撰心は3日間、授業をせず撰心に集中します。今年はコロナウイルスの影響もあり、正眼寺に泊まり込むことはせず、食事も短大でとりましたが、提唱・坐禅・作務は、正眼寺にて雲水さんと一緒にしました。



R4.10.26 短大大撰心。正眼寺にて提唱

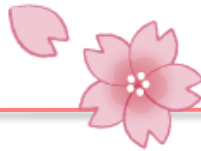


R4.10.6 開山忌撰心にて作務

- **避難訓練** 毎年春と秋に避難訓練をしています。訓練用の消火器を使って消火訓練をしました。



- **食堂** 食堂での食事は作法を学ぶ場ではありますが、栄養にも気を配り、時には楽しく食べられるようなイベントも考えます。右の写真は「わんこそばの日」です。



令和3年度秋学期学位授与式

R4.8.3(水)

大変な暑さ、また新型コロナウイルスも活発で、学生・教職員そろって2名の卒業生を送り出せたことに心から感謝いたします。卒業生はおふたりとも僧堂へ掛搭されます。身体を壊さず、それぞれの道でご活躍されることをお祈りします。

学長告辞をご紹介します。『コロナ禍で制限がある中でも行学一体に励み、困難に耐えて卒業されます。今日ひとつ荷を下ろし、また新たに荷を負うこととなります。その荷をきっちりと次のところまで運ぶ、人生はそうやって続いていくし、それが人の宿命です。本学で学んだあなた方には、困難に耐える力がある。堂々と進んでいってください。』

令和4年度秋学期入学式

R4.9.13(火)

感染症対策のため、ご来賓をお招きすることはまだできませんでしたが、在学生と教職員参加の入学式を開催することができました。新入生は1名と少し寂しいですが、お迎えする側としては、お顔もお名前もすぐに覚えられます。

学長告辞では、『悩みや迷いはあるだろうが、現成受用 起きていることを素直に受け入れ、至誠一貫 まっすぐな気持ちで、行学一体 疑問・学ぶ・行動する を繰り返す。そうやって成長していくことが大切。かけがえのない、一日いちにちを大事に過ごしてください。』とのお話がありました。

令和4年度春学期学位授与式

R5.2.11(土)

寒さもややゆるみ、きれいな青空のもと、6名のご卒業をお祝いできました。2年間の寮生活をされた方、長期履修で通学された方、また進路も僧堂掛搭、ご住職、社会貢献と様々です。何かの折には(何もなくとも)学校を訪ねて近況報告などしていただけたら嬉しく思います。

本学卒業生の篠田泰之さんが2020年に『音吉伝』(新葉館出版)を出版されました。その山本音吉(ジョン・M・オトソン)に触れての理事長告辞をご紹介します。

『一介の漁師に過ぎなかった音吉は日本のためにはたらき、日本を救いました。それは、ついに帰れなかった日本を愛していたからです。こういう人が、音吉だけでなく、鎖国の時代にもたくさんいたのです。』

正眼短大は「日本の復興は伊深の地から」という大きな志を持って開学しました。学生の皆さんはその志を受け継ぎ、確かなものにして卒業していただきたい。人としてこの国に、また世界と、どう関わるか。大きな話でなくても、それぞれの分野で自分ができること、どう生きるのかを自主的・主体的に考え、時代に翻弄されることなく、自信を持って歩んでください。』



令和5年度春学期入学式

R5.4.1(金)

4名の新入生を迎えるにあたり、在校生からの歓迎の辞の中には、「本日から正眼短大の家族の一員」という言葉がありました。本学の建学の精神である「行学一体」、また本学のキーワードのひとつである「大家族」。

新入生の皆さんには、大いに学校生活を楽しみ、たくさんのことを学んでほしいと思います。

■ 以上、令和4年度の報告でした。(校友会の令和4年度は、令和4年5月15日～令和5年5月14日です)

NEWS

校友会の皆様には、卒業後も短大とのつながりを持っていただきたいと思い、梅熟教室棟1階に卒業生の休憩室を整備しました。▶お近くにお越しの時はぜひお立ち寄りいただき、現在の短大の様子をご覧ください。



墨跡カレンダーのご案内

令和6年墨蹟カレンダーを製作しております。
お問合せ・ご注文は校友会事務局で承ります。
ご注文の際は、お名前・ご住所・電話番号・部数をお知らせください。

【1部 1,200 円／送料別途】

揮毫	*掲載月順	表紙	第三代学長	谷耕月老師
1・2月	初代学長	梶浦逸外老師		
3・4月	向嶽寺(山梨)	宮本大峰老師		
5・6月	瑞巖寺(宮城)	吉田道彦老師		
7・8月	瑞龍寺(岐阜)	清田保南老師		
9・10月	靈源院(長崎)	松本普成老師		
11・12月	第四代学長	山川宗玄老師		

今回のカレンダーは、山川宗玄老師が禅語解説をしています。



会費納入のお願い

卒業生の交流及び短大の発展のため、年会費の納入をお願い致します。

*お送りしています振込用紙をご使用ください。

【1口 3,000 円～】

*会費を納入いただきますと、左記カレンダーを1部無料で送り致します。

既にお振込みくださいました皆様には心より感謝申し上げます。



役員紹介

(令和5年11月1日現在)

会長 高林 康秀
副会長 前田 英仁
理事 武山 廣道
永井 稜洲
安部 慈光
青井 有信
原田 宣昭
山本 憲

大津 孝志
龍山 崇志
名誉会長 清田 保南
松本 普成
顧問 細川 宏道
監事 前野 昭道
堀部 佳彦

事務局 高島 忠則
新 山本 宗孝
学内理事 山川 宗玄
鈴木 重喜
宇佐美之規
池田 文明
羽場 寛

※新は新任、他は留任

活動報告・編集後記

校友会報も今年で21回目の発行となりました。ひとえに校友会の皆様のおかげと、謹んでお礼申し上げます。

近年、短大では学生数の減少に苦慮しております。現在は70代までの学生さんが学んでいますので、年齢を問わず、禅を学びたい方を是非ご紹介頂きたく、ご協力何卒よろしくお願い申し上げます。

また、禅を学ぶ真面目な学生への支援として、校友会から短大への寄付を、奨学金として活用していくことも継続したいと思います。校友会として短大を少しでも応援できたらと思っております。重ねてお願い申し上げます。

ご案内

山川学長老師による、正眼短期大学公開講座「禅の心」を開催しています。卒業生の方は、美濃加茂会場の受講無料となっております。ご予約は不要です。ご来場をお待ち致しております。

※日程等は短大ホームページに掲載しています。

▼ホームページ



X (twitter) ▲
@shogentandai